

ちたえぐ通信

●CHITA-EGG TSUSHIN●



みんなの“おいしい”が聞きたいから

『一卵入魂!』

発行 ● 有限会社 知多エッグ
季刊紙 年4回発行 次号は9月予定です。



中野社長



〇部長

35期経営指針発表会 2025年6月3日(火)

会場: まるはりんくう常滑店2F 17時開始

鳥インフルエンザ感染対策として、リスクアセスメント・リスクマネジメントの徹底
～リスクを回避するために取り組んだ私たちの対応の記録～

テーマ 自分で考えて行動する事が会社を成長させる

社長より、業績報告、鳥インフルエンザ対策の振り返り、そして今後の知多エッグについてのお話がありました。感染は免れたものの取引先が被害を受け、これまで築いてきたネットワークを活かし、なんとか供給責任を果たせたこと、そして日頃からのつながりの大切さが語られました。現在、取引先や納品先が増え、責任もより大きくなっています。物価の高騰など不安定な時代にあって、自分たちで考え行動していくことが大切だと強調されました。また、地域全体で情報を共有しながら養鶏業を守っていく必要性にも触れ、第2農場・第2GPの令和10年稼働開始を目指す計画も進行中です。人の力こそが未来をつくるという思いから、社員一人ひとりの成長への期待と、これまでの努力への感謝が述べられました。

今年猛威を振った鳥インフルエンザが近隣地域まで迫る中、知多エッグは感染から免れました。このような環境の中でも各部署がどのような対策を講じ、どのような苦勞を乗り越えたのか、またその中でどのような思いを抱いたのか——。部署の代表による発表を全員で共有し学び合う機会となりました。



Contents

- | | | | |
|----------|--------|------------|-------------|
| 1.開会の言葉 | 17:00～ | 4.社長のお話 | 18:15～ |
| 2.各部署の発表 | 17:05～ | 5.新人・実習生紹介 | 18:30～ |
| 3.部長の発表 | 18:00～ | 6.閉会の言葉 | 18:55～19:00 |

テーマ あなたが、どう生きるか

「想像するとは、まだ見ぬ可能性を織り出すこと。常識や考え方の枠組みを大きく変える“パラダイムシフト”の出発点です」
これは部長が日頃から大切にされている考えです。部長は、想像力には多くの利点があると語られます。トラブルを未然に防ぎ、自ら判断し行動する力を育てる。周囲から信頼され、後悔の少ない選択ができるようになる——それが、想像力の力です。一方で、想像しなければ、指示がなければ動けないロボットのように、自分の意思を失い、後悔にとらわれてしまうかもしれないとも教えてくださいました。想像力は、生まれ持った才能ではなく、鍛えられる力だと部長は伝えておられます。育てていけば、説得力・行動力も身につく、リーダーとしての資質へとつながっていく。その先には、洞察力やチャンスをつかむ力、未来を見通す視点があるかもしれません。その言葉に触れたとき、あらためて考えさせられました——あなたは、どう生きるか。



テーマ 現場発信! 農場と集卵所の防疫連携

現場目線で実際に行った防疫作業、イレギュラーが発生した動きを発表させていただきました。
普段関わりの少ない部署の方も聞く場であったのでなるべく難しい単語は使用せずに初耳でも入りこめる内容にしようと思い資料作りをしました。
農場・集卵所の合同発表というのは初めての試みでしたが、農場・集卵所は毎朝、合同の朝礼にて作業予定の共有を行っており、お互いにどのような鶏インフルエンザ対策をしているかは把握し合っていたので資料作りの際も混乱なく合わせられました。
立派な会場での発表は緊張もありましたが、達成感もあり、次回はさらにいい発表ができればと思います。ありがとうございました。



テーマ 変化を経て全員がスキルアップへ

今回の発表内容は、『近隣農場が鳥インフルエンザになり、従来GPセンターで実施してきた様々な業務に変化があったが、結果として新しい事を経験し学んだりして、全員がスキルアップに繋げる事ができた』という趣旨です。
発表は3人で行い、本音を交えた苦勞話を伝えました。また、数値の移り変わりや増減がひと目で分かるように円グラフを活用するなど工夫を行いました。3人で1つのプレゼンを行うのは全員初めてだったので、各人の時間配分や読むスピードなどを合わせる事に苦勞しました。本番は時間内に終える事が出来て良かったです。
今後はこの経験を活かし、もっと分かり易く、そして感動するプレゼンを目指して頑張ります!!



テーマ お客様対応と情報共有の重要性を実感

私たち、営業・事務チームは、営業と事務が行った対応について、防疫対策、卵不足や鳥インフルエンザへの不安に対するお客様への対応、社内での共有などをまとめて発表しました。その中でも特に伝えたかった事は、お客様への対応と情報共有の大切さでした。お客様への対応は、お客様から色々な声をいただきましたが、いかに私たちがお客様から支えられているかということを感じました。情報共有の大切さは、常日頃から顔を合せている人たちでも、同じ認識が持っていない場合もありましたので、こちらは今後の課題であると痛感しました。発表はとても緊張しましたが、各部署の特色が出ていて今後のコミュニケーションに役立つと思いました。



テーマ リアルな学びを次の備えに繋ぐ第一歩として

「近隣で鳥インフルエンザ発生!Y君!Y君!何をすべきかわかりますか!」危機迫る会話から始まる発表。計画的に準備し、見て聴く人に寄り添うことを意識して台本作成に取り組みました。情報共有・加工部門・周囲の声・品質管理の4視点から、鳥インフルエンザ発生時の対応と、そこから得た学びを今後の備えにどう繋げるかを発表しました。事実だけでなく温度感も含めて伝える重要性、加工品製造への影響、安心・安全の発信による信頼維持、現場で機能する体制の課題を伝えました。Yはチームを動かすトリガー、Iは現場に根差した体制づくりと基盤を支えるキーパーソンを目指す!発表は楽しく充実し、達成感でいっぱいでした。他部署の発表からも多くを学び、貴重な時間となりました。



新人・実習生の自己紹介

新入社員・中途採用の社員4名と、現在各部署で活躍されているベトナム人、タイ人の実習生・特定技能は、2分の持ち時間を緊張の中、立派に発表されていました。



発表会まとめ

立派な会場をお借りし、全社員・実習生・特定技能外国人が一堂に会する形で、本格的な経営指針発表会を開催することができました。各部署の発表は、今回初めてペア形式で行われ、持ち時間は12分、原稿を見ずに暗記して臨むというチャレンジングな内容でした。準備段階から当日の発表まで、発表者にとっては大きな課題でもありましたが、それ以上に多くの学びがあったと思います。また、社長や部長の話に耳を傾けながら、自分は何を感じ、どう行動していくのかを考える時間にもなりました。自分という存在が会社にとってかけがえのないものだと思える機会は、自らつくり出していくものかもしれません。さあ、想像力を働かせ、35期が実り多く、充実した毎日となりますように。

懇親会

会場: まるはドライブイン常滑3F 19時15分開始

社長と相思相愛は誰だ!! 運命の1枚も引き当て!! ゲーム

ルールは簡単! 社長が発表したトランプのカードを持っていた人が社長と相思相愛♡見事運命の1枚を引き当てた方々です! 上位の方は35期の抱負をスピーチしていただきました!



経営指針発表会の後は参加者全員で懇親会が行われました。このような場を設けて下さり、豪華景品が当たる楽しいゲームの開催も快く承諾してくださった社長に改めて感謝申し上げます。従業員各々が課題と向き合い更なる知多エッグの発展を誓う1日でした。

35期経営指針発表会 運用チームメンバー

今回はO・I・O・H・Y・Iが運用しました。



interview

アスミライズ協同組合 S・H さん

今回は3者(Hさん×O本部長×I課長)対談形式でインタビューをさせていただきました。
今号ではインタビューの前編をご紹介します。



Q アスミライズさんのお仕事の内容は?

H: 企業様に外国人技能実習生のご案内、ご紹介をさせていただきます、企業様側の実習生受入れをサポートさせていただく仕事を請負っております。

他には、特定技能外国人やエンジニアも同じような形でご紹介させていただいたり、ベトナムに進出を考えておられる企業様向けに、海外進出支援事業なども(土地の選定から色々なアドバイスまで)やらせていただいております。

O: 知多エッグ的には、彼は技能実習生の会社の人っていう認識でずっと付き合わせていただいています。

Q 知多エッグさんと繋がるきっかけは?

H: 最初は、中野社長と肥料の輸出の関係で色々やり取りをさせていただいたのですが、その時に私のやっている仕事の内容をお話する機会があったんです。そこで中野社長に興味を持っていたかまして「うちはベトナムをメインで企業様とお付き合いさせてもらっています!」というお話をしたところ、「じゃ1回ちょっとやってみるか?」っていう話になりました。

て、一緒にベトナムに行って技能実習生を受け入れていただいたのがきっかけです。

Q 「知多エッグさんに合う人だな」っていうのも、Hさんが決められているのですか?

H: もちろん私一人で知多エッグ様に入社される技能実習生を決めているわけではありません。面接時に色々な話をさせていただき、決めさせていただいております。私は、いつも前もってイメージしつつ、現地に行って本人さんに会うとその子の雰囲気というのがとても伝わってきます。表情とか、面接の時の目の泳ぎ方とか気になりますね。たくさん的人数を面接させていただいておりますので、なんとなくこう、直感的に分かる部分もあって。自分として、この子が日本に行った時に色々な情報とかを共有していける子なのか、知多エッグ様に入社されて、本当に働いていける子なのか、そういったところもイメージしながら、疑わしい出身地であればそういう嫌な質問(あなたは失踪せずに頑張れますか?的な)もさせてもらって、その時の表情とか細かいリアクションも見させていただきながら判断させていただいております。

Q 技能実習生は日本語を喋れなくても大丈夫なのですか?

H: 技能実習の場合、面接で合格した後、日本語学校に入校してもらい日本語の勉強を半年間ぐらいしてきてもらいます。日常会話とか挨拶とか、生活ルールとかそういったことを勉強してから日本に来てもらっています。勉強期間に喋れるようになる子も、なかなか上達しない子もいます。例えば現地で勉強している時点でその子があまりにも日本語の勉強ができていない場合、勉強期間を伸ばしましょうとか、やはりこのままでは、採用はできないというような見極めも大事になってきます。日本語学校に入って生活のルールを犯していないかとか、日本語の進捗度があまりに遅いとかわかってくるのはだいたい入校後2、3ヶ月で分かってくるので、こちらから企業様の方に、予定通り来日していただくのはちょっと無理ではないかとお知らせをし、受入れさせていただくのをお断りさせていただくこともあります。

Q 日本に来られた後の技能実習生のケアもされているのですか?

H: そうですね。技能実習制度という法律がありまして、定期的な監査など規則に従い、必ず技能実習生からの相談や悩みごと、生活環境に問題がないかなどのヒアリング、面談などをしなければいけないことになっています。

Q 最近印象に残った技能実習生の方のお話を聞かせてください

H: 技能実習生は3年もしくは5年まで、日本に滞在することができのですが、先日ちょうど3年間の実習期間を終えて、帰国する子をセントレアまで送迎する道中に色々話をさせてもらった時に、「3年間どうだった?」っていう質問をしたんです。彼女は「本当に知多エッグ様に入社できて良かった。日本に来て良かった」ということを言ってくれて、私に対しても「Hさんありがとうございました」と言ってくれたのはすごく嬉しかったです。僕らの仕事は、やっぱりそういうところに最大のやりがいを感じますし、本当にやってよかったって思いますね。日本に来てくれた技能実習生も良い人たちに恵まれて、そこで幸せに仕事ができたとことに対して、会社にもちゃんと感謝してくれましたし、僕らにも感謝してくれたっていうところが、最近で言えば本当に一番嬉しかったですね。その子は日本語がすごく上手になりましたが、初めからじゃないんですよ。こちらの会社に入ってから自分で日本語を勉強して、従業員の方たちとのコミュニケーションを交すために、いろんな方たちから日本語の勉強とかも教えてもらっていたと思うんです。

I: 彼女は可愛がられるキャラでしたね。いつもニコニコして「ありがとうございます」がちゃんと言える子だったので、周りも率先してサポートしていましたよ!日本人からもベトナム人の同僚からの好かれていました。



～まだまだインタビューは続きます! 次回、Hさんの仕事っぷりをご紹介します!～

新しい仲間の紹介

2025年度の新社員のYさん。農場にフレッシュな仲間が加わりました。ニコニコお茶目な雰囲気がとても印象的。勤務場所が異なる部署の方も、もし会社でYさんをお見掛けしたら是非声を掛けてあげてください。Yさんの明るい空気が会社にあふれる事を期待しています。



M・Yさん

私は愛知県立農業大学校で乳牛・肉牛の飼養管理を学んできました。出身は兵庫県神戸市で、高校は三重県、大学は愛知県と進学の際に東へ進んできました。高校時代には養鶏にも関わり、知多エッグで再び鶏と関われることを嬉しく思います。未熟な点もありますが、精一杯努めてまいりますので、ご指導のほど、よろしくお願いします。



- 生年月日 2004年10月10日
- 趣味 サッカー、サッカー観戦、競艇
- 特技 将棋、サッカー
- 好きな食べ物 肉詰めピーマン
- 嫌いな食べ物 ゴーヤ
- 座右の銘 宇宙からは国境が見えません

抱負

高校、大学で畜産の理解を深めました。知多エッグでは命を預かる責任を胸に、安心・安全な卵作りに誇りを持って取り組み、学び続けながら貢献していきたいです。

従業員へのメッセージ

はじめまして!サッカー・音楽・車・将棋等色々なことに興味があります。皆さんと色々なお話ができることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

社長コラム



有限会社 知多エッグ 代表取締役
Takimune Nakano
中野 滝宗さん

今年も折り返しの時期を迎えましたが、この冬発生した鳥インフルエンザの影響で、相変わらず全国的に鶏卵生産量は不足気味です。しかし、梅雨明けが早く消費量も鈍ってきたため、需給バランスは取れているかと思っています。弊社の取引先農場も8月から出荷が可能となり、徐々に回復し、10月頃には鳥インフルエンザ発生以前の状態に戻る予定です。

他県で鳥インフルエンザが発生した地域も徐々に回復してきています。年内には鶏卵生産量も回復し、秋頃から鶏卵相場も徐々に下がってくると予想されますので、消費も回復してくるでしょう。今後の販売量増加に伴い、原料卵の仕入れも強化していく必要があります。それに備え、社内でのオペレーション改善を引き続きお願いいたします。

編集後記

令和7年7月現在。日本は、いや世界では、言っていないこと悪いことの線引きが極端に判断されているように思います。何を言っても揚げ足を取る輩はおりますし、こちらの失言を誘発しようとしているのではないかと考えることもしばしばあります。言論の自由、ジェンダーレス、多様性、みんな違ってみんないい。という割には、あまりにもお互いのお互いの気持ちを分かっていないのではないのか。自分の身さえ守れたらそれでいい(まあ最低限それはそうなのだが)、他人のことはどこ吹く風でお構いなし。争わず、けなさず、傷つけず、いつも楽しくノンストレスで…。言うべきことを言えない!それがストレスだわ!教育者側にも配慮してくれ。怒っているわけではない。叱っているだけです。うちはサークルではない。部活動だ!目標の無い活動に意味などない。とりあえず、「ごめんなさい」と「ありがとう」が言えない人とは関る価値なし。以上! (銀ババ)